

2024.11
NOVEMBER
No.25

高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊【おらんくの大学病院】

RANK

循環器内科 教授 **北岡 裕章**

森木 俊宏 / 杉浦 健太 / 舟木 孝志



循環器医療の明日を担う
若手専門医が描く未来像とは。

RANK 2024.11 NOVEMBER No.25

高知大学医学部附属病院広報誌
隔月刊【おらんくの大学病院】

【発行日】2024年11月20日 【発行】高知大学医学部附属病院 広報係 〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 Tel.088-880-2723



高知大学医学部附属病院



<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/hsptl/index.html>



＼広報担当者のつぶやき／

早いもので本誌をリニューアルして1年が経ちました。広報としては非常に有難い状況ではありますが、取り上げたい人物や話題が多く、テーマ選定のたびに頭を悩ませています。

先日、病院に寄せられた投書で『〇〇先生の号を作って欲しい』とのリクエストがありました。そんな号があっても良いのかなと思いつつ、またテーマ選定の難易度が上がってしまったことに気づきました。重ねて申しますが、嬉しい悩みです。

循環器医療の 明日を担う 若手専門医が描く 未来像とは。

医療の進歩に並行して、診療医にも様々なスキルが求められるようになった。広範囲に及ぶ循環器診療を手がける本学附属病院循環器内科でも心臓血管外科などと連携しながら先進医療導入や若手医師の育成に力を入れている。今回は本院循環器内科の若手勤務医の皆さんに、個々の専門領域への思いや魅力を語ってもらい、センター長の北岡裕章教授からも注目すべき循環器医療の今後について話を聞いた。



●本院の魅力

まず高知県唯一の大学病院であること。大学では臨床能力に加えてアカデミックに考える力、すなわち学問を創造する力が要求され、学ぶことが好きな人にとっては大きな魅力ではないでしょうか。また教育にも携わることで人間としての総合能力が求められ、自分を成長させてくれる絶好の機会になります。

臨床医としてはもちろん、アカデミアや教育者として尊敬できる先生がたくさんいることが一番の魅力ではないでしょうか。

●専門分野を本院で どのように活かしていきたいか

循環器領域（内科・外科）は病院を支える根幹であり、ここがしっかりしていれば、他の診療科も心置きなく自分達の診療に従事できると思います。ですので、幅広い循環器

疾患に対応できる専門医でありたいと常に考えています。中でもカテーテル分野に関しては、いっそ技術を磨き、少しでも患者さんのお役に立てればと思っています。個人的には、経皮的左心耳閉鎖術（Watchman手術）の治療を開始しましたので、そういった新しい治療も精力的にキャッチアップしていきたいと考えています。

●心に残る院内エピソード

やはり研修医1年目の時に見た老年病・循環器内科の先生達の姿が目に残っています。

患者さんのためにという強い意志を研修医ながらに感じましたね。あの時の衝撃とあこがれがあるから、今こうして当科（老年病・循環器内科）で仕事をしています。あの時の先生方に少しでも近づきたいという思いで、今までやってきましたし、これからもやっていくと思います。

●抱負・展望

高知県出身で高知大学卒業、老年病・循環器内科の医局に入局しましたので、どのような形であれ、高知県のみなさんに医療で貢献したいと考えています。循環器科の安定が、病院・高知県全体の安定につながると思いますので、臨床・研究教育どのような形でもいいので、日々成長し、それが高知県の患者さんのお役に立てれば幸いです。

趣味

読書。昔から勉強することが好きでした。これまで知らなかったことを知る時の自分が成長できたようなワクワク感が好きです。小説などより、実用書を読むことがほとんどですね。

リスペクトしている人物とその理由

小学校の時に亡くなった祖父。子どもの頃によく周りから、「おじいさんは多くの人から慕われるリーダーだった」と聞かされました。今でも、祖父みたいになれるかな、祖父ならどうするかと自問することがあります。

“あなたはこんな人”と言われる

東京時代の上司から、「素直」と言われずごくうれしかった記憶があります。自分では自分の性格特性はあまりわかりませんが、そう言ってもらったので、自分の長所と捉えるようにしています。

特任助教

森木 俊宏（もりき としひろ）

高知大学 2012年 卒業

【専門分野】
カテーテル治療、左心耳閉鎖術（経カテーテル）

【専門医等資格】
日本循環器学会循環器専門医

幅広い循環器疾患に対応できる専門医へ！ 新しい治療を 精力的にキャッチアップして行く！



国際的な視点を取り入れるべく、海外留学にも挑戦!?

これまで培ったゲノム解析の ノウハウ全てを 診療に活かしていきたい!

●本院の魅力

当科では以前から、肥大型心筋症の診療にゲノム情報を活かす取り組みを進めてきました。遺伝情報は、患者さんだけでなくそのご家族にも影響を及ぼす可能性があるところから、患者さんだけでなく、その家族に対して丁寧に診療する当科の姿勢が、とても魅力的に感じられます。

●専門分野を本院で

どのように活かしていきたいか

元々は私の所属している老年病・循環器内科の久保先生のもとで、肥大型心筋症の遺伝子解析に取り組んでいました。その後大阪大学の難病ゲノム解析センターで次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析技術を学び、現在に至ります。

●本院の魅力

専門性の高い多職種が連携しながら治療にあたることで、より有効で円滑な治療が提供できることが挙げられます。

さらに、専門医師が地域と本院を柔軟に行き来しているフットワークの良さが挙げられます。

●専門分野を本院で

どのように活かしていきたいか

私の専門分野は心臓カテーテル治療です。これまで狭心症、心筋梗塞に対するカテーテル治療、下肢閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療に携わってきました。

4年前に国内留学を経験し、そこで心臓弁膜症に対するカテーテル治療について研鑽を積みました。そこでは多くのカテーテル治療に携わりましたが、大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療TAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation)については特に修練を重ね、治療にあたる資格も取得しました。

その経験に基づいて、当院でTAVI導入の取り組みをスタートさせ、2024年8月より当院でTAVIが行えるようになりまし。現在はまだ少数ですが、安定した



これまでに培ったゲノム解析のノウハウの全てを、引き続き肥大型心筋症の診療に活かしていきたいと思っています。
また現在は、全国から同疾患の遺伝学的検査を受託し、解析を行なっています。

●心に残る院内イベント

遺伝学的検査の受託プロジェクトの立ち上げに際して、所属科の先生方や検査部、病院事務の皆様からの多大な協力がありました。たとえば、物品購入の際の価格設定やホームページ作成など、過去に経験のない慣れないことの連続でしたが、周囲から手厚いサポートを得てプロジェクトを進めることができました。

おかげさまで、現在では検査依頼も増え、軌道に乗っています。

●抱負・展望

今後は、肥大型心筋症の遺伝学的検査を当科の強みとして確立していきたいと考えています。
また、国際的な視点で知見を深めるために、積極的に海外留学にも挑戦したいと考えています。

多職種が連携し、より正確な治療にあたる。

カテーテル治療「TAVI」の 治療経験の幅を広げ、 地域に貢献していく!

治療成績を残すことができますし、今後も引き続きモチベーションを高めながら治療に臨みます。

●心に残る院内イベント

今回TAVI導入にあたり、多くの部門、多くの方々と話し合い、いずれも非常に協力的であり、導入までスムーズに行うことができました。初回のTAVI治療を終え、指

●抱負・展望

導にきていただいた先生から「いいチームだ」とお褒めいただいたときは、非常に嬉しかったです。
当院でカテーテル治療を希望される全ての患者様のニーズに応えられるように、治療の幅をより広げ、地域医療に貢献していきたいと思っています。

趣味
温泉・サウナ(小さい頃からお風呂が好きで、サウナに入ると心身ともにスッキリします)

リスペクトしている人物とその理由
同門で別病院におられる先生から、信念をもって治療にあたる大事さを教えていただきました。

“あなたはこんな人”と言われる
家族や友人から「あなたは我が道を行くタイプの人間ね」とよく言われます。

特任助教
舟木 孝志 (ふなき たかし)
高知大学 2014年 卒業

【専門分野】
カテーテル治療、SHDインターベンション(TAVIなど)・PCI・EVT

【専門医等資格】
日本循環器学会循環器専門医、経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 SAPIENシリーズ実施医・指導医、経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 Core Valveシリーズ実施医





高知県内の心疾患系、循環器系の医療に対してどういった考えをお持ちでしょうか。

高知県は高齢の方が非常に多く、心臓疾患を持たれている方がたくさんおられます。心臓疾患は、急性心筋梗塞、心不全、心臓弁膜症、不整脈などが代表的です。残念なことに高知県の急性心筋梗塞による死亡率が常に全国ワースト5位以内に入っているのです。この病気は最初の数時間の対応が生死を分けます。高知市外で発症した場合、その全員を高知市内の病院に速やかに運ぶことが不可能で、各地域で

わかって然るべきです。我々は、高知県の心不全患者さんの実態調査を行い、それに応じた「高知モデル」の確立を模索しています。これらの取り組みは全国的にも高評価をいただいているものです。

循環器内科では若手の医師の活躍も注目されていますが、後輩医師の皆さんへエールをください。

良い医師になるには、ひたすら症例をこなす経験だけでも十分ではないし、かといって、考えるばかりでもだめだと考えます。行動する力と考える力の二つがバランス良く備わってこそ、良い医師と呼べると思います。それは、大学や最前線の病院での臨床経験と大学における研究経験によって達成されると思います。さらには、日本の最先端での病院での経験も提供し、新しい技術や知識を高知県に還元することも重要だと思います。一人前の医師に育てるのが我々の仕事であると考えています。

本学は大学特有のセクショナルリズムをあまり感じることもなく診療科間の垣根が低いいため、仕事がしやすい環境が出来上がっているように思います。今後も、ワークライフバランスを考えながら、働きやすい環境を構築していきたいと思えます。

若手の医師を地域に派遣し、急性難治療ができる体制づくりを

そういった条件下で、本院の立ち位置はどういったものでしょうか。

の治療体制を整えなければなりません。中央診療圏は勿論、幡多けんみん病院やあき総合病院でも対応し、均一な治療を提供することが重要です。さらに近年心不全患者さんが増加しています。これは、人口の高齢化が大きな原因です。心不全は、心臓が何らかの病気で働きが弱り、全身に血液が送れないため、疲れやすい、足が浮腫む、息切れをするなど状態を指します。心不全は、病気の重さに加え、生活環境なども大きく影響します。そこで、高知県の協力を得て「心不全連携の会」などの活動を通じ、多職種で心不全患者の治療に当たっています。

最後に、当科の患者さんへ高知県民の皆さんへメッセージをお願いします。

当科は、老年病科もありますし、先進的な医療に加え、おらんくの大学病院として患者さんに寄り添った医療を行う重要性をとて大事にしています。アカデミアとしての最先端の知識を基に、全人的医療のスキルを備えた医師を育て、循環器のエキスパートをつくることを目指しています。

これからも最先端かつ患者さんに寄り添った治療を提供し続けていくことをお約束いたします。

これから本院循環器内科が目指すべきものとして、何が挙げられますか。

繰り返しになりますが、大学病院でしかできない先進的な治療の提供、そして人材を育成して、県内全域の循環器医療の体制を維持・レベルアップすることの二つです。

「心筋症」「心不全」の取り組みへの思い

なるほど、よく分かりました。現在、北岡先生が取り組まれている研究などはありますか。

本院は高知県内唯一の医療機関ですので、全人的な医療の展開できる医師を育て地域に派遣し、大学病院だけでなく県全域で一定レベル以上の急性期治療ができるような体制を作っていくという使命があります。さらに、特定機能病院ですから、弁膜症や不整脈に対する先進的な医療や人工心臓の管理、難治性疾患などの特殊な症例に大学病院でしか出来ない医療を提供し、高知県全体の循環器医療を支えるのが、本院のあるべき姿と捉えています。

また、今チーム医療の重要性が強調されています。本院では、開学以来50年近く、心臓血管外科と循環器内科が顔を揃え、週1度のカンファレンスを行っています。外科、内科それぞれの考えを包み隠さず議論し合い、患者さんにより良い治療を提供していくことを目的としたもので、これは当院の自慢するところでもあります。

以前から当科で取り組んでいるのが「心筋症」で、これは研究における大きな柱です。日本でも本院はトップランナーの一つとして認識されていると自負しています。現在国内に数力所しかない心筋症の遺伝子検査が可能な施設の一つです。そのことから国内から難病や遺伝子疾患を抱えた患者さんが多数来院されていると思います。多くの新薬の治験にも参加してきました。その結果、従来治療の難しかった難病にも明るい展望が見えてきました。もう一つは心不全です。先程も申しました様に、心不全は、単に心臓の状態だけでなく、社会環境も大きく影響します。よって、各地域で心不全患者さんのマネージメントは変

大学病院でしかできない先進医療と人材の育成で、県内全域の循環器医療を維持していく。

考える力と行動する力の二つがバランス良く備わってこそ、良い医師と呼べると思います。

循環器内科 教授 **北岡 裕章** (きたおか ひろあき)

- 【経歴】**
 1988年 高知医科大学 医学部 卒業、同大学 老年病科 入局
 1990年 須崎くろしお病院 内科
 1991年 国立循環器病センター 内科心臓部門レジデント
 2009年 高知大学老年病・循環器・神経内科学 講師
 2010年 高知大学老年病・循環器・神経内科学 准教授
 2013年 高知大学老年病・循環器・神経内科学 教授
 2018年 高知大学医学部附属病院 副院長 (兼任 医療安全担当) [~2020年]
 高知大学医学部 医療学系長 (兼任) [~2022年]
 2024年 高知大学医学部附属病院 副院長 (兼任 総務担当)
 高知大学医学部附属病院 医療人育成支援センター長 (兼任) 現在に至る

【専門分野】
 虚血性心疾患、心不全、心筋症、高血圧、老年病学

【専門医等資格】
 日本内科学会総合専門医、日本循環器学会専門医、CVIT認定医、高血圧専門医、日本老年病専門医